

2022年 年頭所感

一般社団法人 日本映像ソフト協会 会長 吉村 隆

あけましておめでとうございます。

本来であれば恒例の賀詞交歓会にてご挨拶させていただくところですが、コロナ禍における皆様の安全確保と感染拡大防止の観点から、本年も残念ながら開催中止とさせていただくこととなりました。本年も、本誌面にての年頭のご挨拶に代えさせていただくことをご理解申し上げます。

2021年を振り返りますと、感染拡大の防止策とビジネスをいかに両立させていくのか、その難しい舵取りに今年も又苦勞させられた一年であったと思います。会員社の皆様におかれましても、多くのご苦勞があったこととお察し申し上げます。

こうした中、今年のパッケージ市況は、映画館の営業自粛やライブ、イベントの中止、何よりユーザーの行動自粛が引き続き市況に大きな影響を与えました。流通チャネル別ではセル市場においては、400億円を超える興行収入を記録し社会現象にもなった「鬼滅の刃 無限列車編」のパッケージリリースが大きく後押ししたことで、前年を上回る実績を確保できる見込みです。一方レンタル市場は低迷が続いております。その主因は、レンタルショップの顔というべき洋画や邦画の強力作品が、まさにコロナの影響によって発売できなかったことであつたとみています。加えてリアル店舗においては、コロナ禍によるユーザーの行動変容が逆風となりました。つまりコロナ禍の巣ごもりがレンタルユーザーに映像配信、特にS-VODを中心としたデジタル配信への移行を強く促したものと推察しております。しかしパッケージレンタルはエンターテイメントを楽しむユーザーにとってまだまだ必要なメディアです。当協会と致しましてもこの市場の維持にこれからも全力で努めてまいりたいと思っております。

とはいえ新型コロナはユーザーにおけるデジタル配信の利用を加速させており、さらにその傾向が進むことは間違いありません。我々が毎年実施しておりますユーザー動向調査によれば、現在、全映像ソフト市場における有料動画配信市場は、全体の半数以上を占めております。当協会としましても、デジタル配信部会が、まずは市場やユーザー動向の把握をすべく活動を開始しました。デジタル配信市場はあらゆる種類の映像作品が混在します。それゆえ非常に分かりにくい混沌とした市場ともいえますので、その市場を的確に把握することは非常に困難と言えますが、会員社の皆様とともに英知を結集し対処してまいります。

また、権利侵害につきましては「ファスト映画」問題が発生しました。権利者に無断で使用、編集そして公衆送信されたことは大問題ですが、若年層がこういった動画を好んで見た事実も我々にとってはショッキングな出来事でした。この問題に対し逮捕者を出し、そのこと自体が広くメディアに取り上げられたことで、ファスト映画の投稿問題も、その後激減したとの報告を受けております。何より迅速なご対応をいただいた宮城県警察の皆様にはこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。

我々を取り巻く環境は引き続き厳しい状況ですが、エンターテインメントが語られない日がないことも事実であります。ユーザー目線に転ずれば、こういう状況だからこそ、良質な作品がより求められているといえるのではないのでしょうか。

コロナの終息はいまだ不明ですが、来るポストコロナに向け皆様方と手を取り合い、この難局を乗り越えたいと思っております。ユーザーの求める良質な作品を生み出し、その作品を消費者の皆様へ届ける努力を積み重ね、ますますの業界の発展に尽力してまいりますと思っております。

本年も、会員各社、関係官庁、関係団体等の皆様からの一層のご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、何よりも皆様方のご健康を心から祈念いたします。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。